

海と人と人をつなぐ。

さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、
ときに心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海。

そんな海で進行している環境の悪化などの現状を、
子供たちをはじめ全国の人たちが「自分ごと」としてとらえ、

海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、
日本財団、総合海洋政策本部、国土交通省の旗振りのもと、
オールジャパンで推進するプロジェクトです。

海と日本PROJECTが 推進する5つのアクション



海を味わおう！

普段、何気なく口にする海の食べもの。
それらは一体、どこからやってくるのか。
今こそ私たちは、海の資源は有限であると知る必要がある。
ひとつの料理の背景には、地域の風土に培われた漁業文化がある。
私たちは、いつの時代も、これからも、海の命に生かされている。
海を味わうとは、海の恩恵に深く感謝すること。



海を体験しよう！

最近、海に行っただろうか。
いま日常に開放感が足りないなら、海へ行こう。
誰もが時間を忘れ、真っ黒になるまで日焼けをして、
くたくたになるまで海で遊ぶ。
海には、自分を解放つワクワクと冒険がある。
海を体験するとは、海の感動を分かち合うこと。



海を表現しよう！

目を閉じて、海の情景をイメージしてみる。
どこまでも広がる青、寄せては返す波音、心地よい潮風。
まっさらになった心に、みずみずしい好奇心が満ちていく。
心に広がる想像力は、いつかみた懐かしい夢を紡ぎ出す。
海には、誰をも表現者に変える力がある。
海を表現するとは、海から創造する力を手に入れること。

海を学ぼう！

いま海で起きていることは、未来とつながっている。
長い年月の中で伝承されてきた海の知恵には、
人生を豊かにする、たくさんの気づきとつながっている。
私たちは、海に支えられ、海に生かされている。
そのつながりが理解できれば、きっと行動が変わる。
海を学ぶとは、「海と自分とのつながり」を感じること。

海をキレイにしよう！

海にはさまざまなものが流れ着く。
海でゴミ拾いをすると、たくさんの驚きと発見に出会う。
ひとりではなく、多くの人と一緒にゴミ拾いをすると、
きれいになった砂浜をみて、達成感を分かち合えるばかりか、
海との関わり方について、それぞれが考えるようになる。
海をキレイにするとは、出会いと喜びを創造すること。



海と日本PROJECT 津軽海峡こども調査団

調査報告

津軽海峡がもたらす海の恵み(水産資源、環境、地域の特性や歴史など)について、青森県と北海道の小学生が調査しました。

STEP 1 エリア調査

まず各エリアごとに青森港・函館港の周辺で調査を行いました。

青森県 青森市 2018年7月21日(土)



浅虫水族館では職員の方のガイドで、津軽海峡の豊富な水産資源を知識だけでなく視覚的にも学びました。



浅虫水族館で学んだ魚を地引網で実際に獲り、豊富な資源を実感し直接触れることで魚をより身近に感じました。



地引網で獲った魚をその場で捌いてもらい、新鮮な魚の美味しさを味わいながら海への感謝の気持ちを育みました。



八甲田丸では津軽海峡で獲れる海産物は食だけでなく経済も支えたという青函の歴史と結びつきを学びました。

北海道 函館市 2018年7月26日(水)



函館の名物であるイカの生態や漁法、世界遺産登録を目指す北海道・北東北の縄文遺跡群について専門家から学びました。



はこだて自由市場の店頭に並ぶ旬の魚介類を調べ、今年の水揚げ量や値動きについてもお店の方に聞き取り調査を行いました。



津軽海峡に生息するサメを解剖して生態を学び、調理実習として函館では珍しいサメ料理を作り美味しくいただきました。



摩周丸では青函連絡船について元船長から当時のお話や海難事故についてお聞きし、操舵方法も教えていただきました。

STEP 2 海洋調査

両エリアの代表が「帆船みらいへ」で津軽海峡を渡り、海洋上で調査しました。

2018年8月7日(火)~8月9日(木)

団員たちが調査内容を新聞にまとめました。中面をご覧ください。



津軽海峡の荒波と強風を肌で体感。船上ではバウスプリット渡りやロープワーク、操舵などを体験し、海図の見方も学びました。



専門家の指導のもと海水を採取して温度や塩分濃度を調べたり、プランクトンを培養し顕微鏡で観察しました。



停泊した大間港で夜間のサビキ釣りを体験。サバ、メバル、フグ、アジなどを釣り上げ、から揚げにしてみんなで食べました。



大間に上陸しマグロの解体を見学。マグロ漁の現状をお聞きしたり、海の安全祈願や魚への感謝を込めて神社にお参りしました。

海と日本 PROJECT 津軽海峡こども調査団

【主催】 海と日本プロジェクト in 青森県 (青森テレビ)、海と日本プロジェクト in 北海道 (北海道放送)

【共催】 青森県教育委員会、青森県、北海道新聞社

【後援】 北海道教育委員会、函館市、函館市教育委員会、青函圏交流・連携推進会議

【協力】 一般社団法人グローバル人材育成推進機構、Yプロジェクト、ハビネット mama、社会福祉法人北海道社会事業協会函館病院



津軽海峡新聞

THE NIPPON FOUNDATION 海と日本 PROJECT

発行人: 丹下坂樹 深堀世奈 菅原零生 中村英雪 松本 阿部心虹

函館と青森をつなぐ海!!

■公海とは?
全世界の海の中央部は公海である。
※緯度経度の間隔が1海里=1852m(約2km)が公海です。

■津軽海峡豆知識
・遠くを見る!
・水を飲む!
・2日目は慣れる!

ヤバイよ! ヤバイよ! 津軽海峡

津軽海峡は太平洋と日本海を繋ぐ重要な海峡で、北は青森県、南は岩手県にまたがっています。海峡の幅は約24kmで、水深は約100mです。津軽海峡には多くの船舶が通っており、交通の要路となっています。また、津軽海峡には多くの島嶼があり、美しい自然環境を有しています。

大間の魚つり

大間の魚つりは、マグロの解体と食文化をテーマにしたイベントです。ここでは、大間の魚つりについて詳しく紹介します。

大間の魚つりは、マグロの解体と食文化をテーマにしたイベントです。ここでは、大間の魚つりについて詳しく紹介します。

豊かな海を守る方法と工夫を考えよう!

最近、海の問題が深刻化しています。私達は、調査を通じて海の問題を調査してきました。

①ゴミ問題の調査...例えばコンビニの袋を海に投げると、カメなどがクラゲとまちがえ食って死んでしまう事が多発しています。

②国際で決められたルール...海の環境を考慮しないで、勝手に漁をする国があります。

これらの問題は、すべて人の協力がないとできません。一人一人の人間が海の事を考え、ゴミ捨てをしない、ルールを守るなどの事を考えてくれると、うれいします。みなさんも明日から海の事に気をつけて生活して下さい。

(佐藤ユリ、渡辺太朗)



津軽海峡新聞

THE NIPPON FOUNDATION 海と日本 PROJECT

発行人: 佐藤ユリ、渡辺太朗、長尾京太郎、川田美也野、坂本彩音、寺本筆彦

豊かな海と自然を守っていきこう!

海はあばれんぼ! アル津軽海峡アトラクション

津軽海峡は太平洋と日本海を繋ぐ重要な海峡で、北は青森県、南は岩手県にまたがっています。海峡の幅は約24kmで、水深は約100mです。津軽海峡には多くの船舶が通っており、交通の要路となっています。また、津軽海峡には多くの島嶼があり、美しい自然環境を有しています。

津軽海峡は太平洋と日本海を繋ぐ重要な海峡で、北は青森県、南は岩手県にまたがっています。海峡の幅は約24kmで、水深は約100mです。津軽海峡には多くの船舶が通っており、交通の要路となっています。また、津軽海峡には多くの島嶼があり、美しい自然環境を有しています。

感謝する 津軽海峡の食べ物 坂本彩音・長尾京太郎

8月7、8、9日 ども調査団がありました。初日はアテンションさじ取がありました。小さくて見にくかったけど、その夕暮りごいこまりました。19:30にはサビキ釣りを行いました。釣れたものは、アジ2匹、アジ2匹、サバ4匹でした。翌日には、からあげにしごきでました。たいせつな命をいただきます。

大間でははじめに稲荷神社と入大龍神堂に行きました。魚の命をいただくことに感謝してつくられた神社です。その後実際にマグロの解体を見て食べました。マグロはどんどん少なくなっていて、漁にも制限もあって、漁師の収入は大変そうでした。小さな命から大きな命までの食物連鎖を私達は食べています。その命を感謝しながら食べましょう。

豊かな海を守る方法と工夫を考えよう!

最近、海の問題が深刻化しています。私達は、調査を通じて海の問題を調査してきました。

①ゴミ問題の調査...例えばコンビニの袋を海に投げると、カメなどがクラゲとまちがえ食って死んでしまう事が多発しています。

②国際で決められたルール...海の環境を考慮しないで、勝手に漁をする国があります。

これらの問題は、すべて人の協力がないとできません。一人一人の人間が海の事を考え、ゴミ捨てをしない、ルールを守るなどの事を考えてくれると、うれいします。みなさんも明日から海の事に気をつけて生活して下さい。

(佐藤ユリ、渡辺太朗)